

3-7 大学職員情報化研究講習会

教育支援、人材育成支援の積極化を図るため、業務のあり方を見直す中でIT活用による新しい支援の可能性と課題を確認し、問題解決のための実践力の開発を目指すことを目的に、従来の「大学情報化職員研修会」、「大学情報化職員基礎講習会」を統合して、新規に「大学職員情報化研究講習会」として事業を実施することになり、「基礎講習コース」および「応用コース」を設けて対応している。

研究講習会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置して対応した。以下に活動を報告する。

(1) 研究講習会開催計画の方針

研修事業は、これまで教育支援、人材育成支援に向けた職員の意識改革に主眼をおいてきたが、職員の意識改革が進み、大学での業務改革などを通じて職能開発を実践する段階となってきたことから、本協会の研修事業も次の段階として、教育改革に情報技術を活用する企画、体制、仕組み、評価、改善の視点から、具体的な事例を参考に実践能力の開発に寄与するよう、研修内容を変更することにした。また、研修成果を高めるため、到達目標の明確化と到達度評価の導入を実施することにした。以下にコース別に事業を報告する。

(2) 基礎講習コースの開催要項決定と準備

基礎講習コースのねらいとして、①ITを活用した教育支援の理解と最新技術動向の把握、②グループ討議を通じた課題発見能力、創造的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上、③本コースでの学びを大学の教育改善に反映しようとする姿勢の涵養、④参加者間の人的ネットワーク構築を掲げ、事業の到達目標を明確化することで、参加者の動機付を促進し、自己開発力の向上が図れるようにした。

講義内容は、「期待される職員像」を割愛した他、ほぼ前年を踏襲した内容とし、具体的な事例をあげながら大学運営への情報活用、情報基盤の整備、情報技術を活用した教育支援・人材育成支援について講義を行うこととした。なお、参加者に対して、講習会開催に先立つ7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」の事前通読を通知した。

平成20年度基礎講習コースの開催要項

1. 日 程：平成20年7月9日（水）～11日（金）
2. 会 場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）
3. 対 象 者：私立大学・短期大学の職員 ※私情協非加盟校も対象としています。
4. 開催趣旨：

人材育成を最大の使命とする大学教育に対して、国・社会から強い見直しが求められている。大学が掲げる「学士力」を実現していくには、教員はもとより理事会、職員が一体となって取り組むことが不可欠となってきている。このような中で職員の役割は、教育改革を効果的に進めるためのコーディネート、マネジメントを通して教育支援、人材育成支援を実現することにある。

そこで、本コースでは、講義や具体的な事例研究およびグループ討議を通じて大学職員に求められる役割や責任を理解し、望ましい大学作りのために求められる情報技

術（IT）の知識を習得することを目的とする。

5. 講習の進め方：

開催趣旨説明において、大学職員の役割や責任について共通理解を得ます。

講義において、大学における情報の利活用や情報環境の構築、ITを活用した教育支援のあり方等、情報化に関する基本的な事項について解説を行います。

講義後、グループ討議を実施します。

※ 各プログラムにおいて学習目標を具体的に示すとともに、その到達度を評価するための指標を提示いたします。これは、受講者全員が目標を共有するとともに、ひとり一人がみずからの学びを省察しながら（振り返りながら）、より主体的に講習に取り組もうとする意欲を喚起することを目的としています。

6. 本コースのねらい：本コースでは、次のような成果を目指します。

- ・ ITを活用した教育支援の理解と最新技術動向の把握
- ・ グループ討議を通じた課題発見能力、創造的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上
- ・ 本コースでの学びを大学の教育改善に反映しようとする姿勢の涵養
- ・ 参加者間の人的ネットワーク構築

7. 講義概要：

【講義1】大学運営と情報の活用

講師： 梶田 晶子氏（東海大学総合情報センター情報システム開発課課長）

大学における情報環境や情報システムは、既に、教育・研究・社会貢献など大学の使命を遂行するためのライフラインとなっている。また、大学が組織として意思決定する場合には、教育・研究情報、教育環境、財務情報、自大学の強みと弱み、優れた教育実践事例と言った情報を客観的、総合的に把握・分析し、戦略的な将来計画に繋げることも可能となった。

本講義では、大学改革を推進する立場から、業務の効率化、教職員一人ひとりへの支援やサービス、さらに経営戦略や組織改革といった大学の意思決定にまで活用される情報システムについて、基盤としての情報戦略や情報環境、情報共有と協業等の視点から解説する。

[キーワード]

大学運営、意思決定に関わる情報利用
情報基盤と環境の整備
情報の共有と協働

【講義2】情報基盤の整備と大学の新たな可能性

講師： 山崎 達朗氏（芝浦工業大学 学術情報センター事務部長）

情報技術の革新により、授業の現場や法人業務等、大学の様々なシーンでITはなくてはならないものとなっている。既存のシステムを効果的に活用することはもちろんのこと、最新の技術動向と自大学の教育課題を把握し、柔軟な発想と技術的裏づけをもって、大学運営の改善につながるような仕組みを提案、構築することも大学職員にとっては重要な役割である。

一方で、重要な情報が集積することで、その取り扱いに当たっては慎重さと積極性をバランスよく求められる。

本講義では、職員に求められる情報活用能力と最新の技術動向について、実際の大学に導入された事例をもとに解説する。

[キーワード]

情報技術の活用とは
情報の利便性と危険性
情報基盤整備のあり方
技術導入の実践事例（芝浦工業大学）

【講義3】情報技術の活用による教育支援・人材育成支援

講師： 齊藤 和郎氏（札幌学院大学情報処理課長）

事例紹介：仲道雅輝氏（日本福祉大学教育開発室教育デザイン研究室主幹）

本講義では、講義1と講義2で解説された内容の理解を深めるため、IT活用の優れた実践事例を紹介しながら「情報技術を活用した教育支援・人材育成支援とは何か？」を受講者と一緒に考えてみる。

まず、「情報活用」と「データ処理」の違いを明らかにし、この違いを認識するために私たちが持つべき視座と視点を確認する。続いて、情報を戦略的に活用するためには単なるITの導入だけではなく、個人と組織がともに変革することが重要であること、そして、これには大きな困難が伴うものであることをいくつかの事例を交えながら解説する。

その上で、学生の人的成長を支援する情報活用システムを企画・立案し、開発・運用に携わっている方をゲストにお招きし、職員がどう動き、大学がどう変わったのか、そのプロセスを共有しながら、「自分たちの大学も変わることができる」、「何よりも自分たち自身が変わることが大切だ」という希望や気づきを得るとともに、教育改革への職員の関与について具体的なイメージを獲得する。

[キーワード]

情報活用とデータ処理との違い
情報を戦略的に活用するための職員の役割
教育改革への職員の関与

8. グループ討議概要

第1ステージ： お互いを知り、打ち解けるためのブレインストーミング

第2ステージ： 教育改善のためのディスカッション

第3ステージ： 発表テーマの絞込み

第4ステージ： グループのまとめ、成果発表

(3) 開催結果と次年度の計画

参加者は100大学、3短期大学から190名であった。開催結果の詳細は、資料編【資料16】を参照されたい。

本年度は、到達度自己評価を取り入れることで、参加者の満足度ではなく、研修成果の内容について評価した。それによると9割前後の参加者が全ての研修の狙いに対して概ね達成できたと回答しており、所期の目標は達成できた。また、参加した大学で今後の取り組みの参考となるよう、討議の成果発表をレポートにまとめ、参加者間に限定でWebに公開した。次年度は、本年度のプログラムの枠組みを基本的に継承することになっているが、グループディスカッションにおいて参加者の意識レベル、各大学の置かれている現状・問題点にギャップが見られたため、討議テーマの設定やグループの編成に工夫を加え、よりよい運営となるよう準備することになっている。

(4) 応用コース開催要項の決定と準備

本コースは「基礎講習コース」の応用編として、情報化戦略の視点から情報技術を活用した先進事例を学ぶとともに、大学改革に関する諸課題に対応した8つのテーマ別分科会を置き、情報交流と創造的な討議を通じて、実践的な職能開発を目的としている。

全体会では、取組の背景にある本質的な課題への認識を深め、職員が果たすべき役割を考察することで分科会討議の足がかりとするため、情報技術を活用して積極的に教育支援を展開している事例2件(「eポートフォリオを活用した教育改善」、「図書館員による学習支援」)の研究を行うことにした。全体会に引き続き、分科会形式によるテーマ別討議を行うこととし、各分科会ともメーリングリストなどによる事前研修を取り入れながら討議の準備を行った。

本研修で期待される成果について、自己点検・自己評価のチェックリストを示し、研修の適切な評価指標となるよう工夫を行った。なお、開催日程は、これまで2回の日程に分割していたものを統合して1日程に集約して開催することとした。

平成20年度応用コース開催要項

1. 日程：平成20年10月15日(水)午後0時30分開始～17日(金)
2. 会場：浜名湖ロイヤルホテル(静岡県浜松市)
3. 対象者：私立大学・短期大学の職員 ※私情協非加盟校も対象としています。
4. 開催趣旨

人材育成を最大の使命とする大学教育に対して、国・社会から強い見直しが求められている。大学が掲げる「学士力」を実現していくには、理事会、教員、職員が一体となって教育改革に取り組むことが不可欠である。このような中で職員の役割は、コーディネート、マネジメントを通して教育改革を推進し、社会に貢献できる人材の育成を積極的に支援することにある。そこで、本コースでは、ITを活用した先進的な実践事例に学ぶとともに、参加者相互の自由な意見交流と創造的な討議によって職員一人ひとりの資質向上を目指すこととする。

5. 研修の進め方

全体会では、ITを積極的に活用した教育支援、人材育成支援に関する事例紹介を行う。その後、テーマ別の分科会に移行し、小人数グループでのディスカッションを通じて、ITを活用した課題解決の方略を検討する。分科会では、必要に応じて参加者の中からあるいは大学関係者を招いて先進的な取組の事例紹介を行うことがある。

6. 本コースで期待される成果

- ・ 大学教育を取り巻く環境の変化について認識を深めるとともに、今まで気づかなかった自大学の現状や課題を発見する
- ・ これからの大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識を獲得する
- ・ 大学の情報化を推進しようとする際に向き合わなければならない人的、組織的課題を認識するとともに、これを解決する上での視点を獲得する。

7. 全体会概要

①趣旨説明

研修運営委員長より本コースの開催意図、大学を取り巻く様々な課題、社会が大

学教育に求めること等について解説を行い、研修を始めるにあたっての基本的な認識を共有する。

②事例研究

各大学が掲げる「学士力」を育成するため、学生たちの学びに対する意識の転換を図り、自主的、創造的な学習者へと変革を促す組織的な支援が重要課題とされている。ここでは、教員と職員が協働し、ITを効果的に活用しながら学習支援活動に取り組む優れた実践事例に学び、教育改革へ向けた戦略的、実践的解決策を導き出す上で私たち職員に求められる視点について考える。

(事例)

関西国際大学「eポートフォリオを活用した教育改善」
明治大学「図書館員による学習支援」

8. 実施分科会

- 1) 学生の主体的な学びを喚起する学修支援
- 2) 教職員が連携した戦略的な教育支援
- 3) キャンパスライフを支援する効果的なIT活用法
- 4) 大学広報におけるWebサイトの戦略的構築と差別化
- 5) 多様な学生に対するきめ細かなキャリア形成支援
- 6) 学生の自立的な学びを支援する大学図書館の役割
- 7) 大学を取り巻く環境の変化に対応した情報システム部門の役割
- 8) 教職員の協働を推進するITを活用したコミュニケーション

(5) 開催結果と次年度の計画

参加者は101大学、賛助会員5社から173名であった。開催結果の詳細は、資料編【資料16】を参照されたい。

参加者は前年から比べ約50名減少した。参加大学数は前年とほぼ変わらなかったが、1回の日程としたことで参加者の派遣が難しかったためと思われる。目標達成について参加者の自己評価を集計したところ、「大学を取り巻く環境への認識を深め自大学における課題を発見することができた」割合は8割を超えた。「職員に求められる役割を再認識し、コーディネートやマネジメントとに関わろうとする意識が高まった」は7割台、「情報化推進に求められる視点を獲得できた」は6割台と一段低かった。基本的な課題認識を探るための議論を展開したが、解決に向けての役割や戦略について、具体的イメージを描くまでに至らなかった。一方、事後研修として、一部の分科会では「アクションプランの提出とその実践報告」などを課して、研修成果を大学に還元する取り組みも見え、事業の重要性が確認された。

次年度の企画については、概ね本年度のプログラム構成が効果的に機能したため、細かい部分で改善を加えるものの、基本的なプログラムは継続する予定である。分科会については、討議の狙いや内容に重複が生じていることから、再編成を予定している。